

まほろば秦野通信

平成29年6月7日

秦野市市長公室広報課

タイトル	庁舎の耐震改修に合わせ ミニギャラリーをオープンしました
When (いつ)	6月8日(木曜日)～
Where (どこで)	市役所本庁舎3階 ロビー
What (なにを) How (どのように) Why (なぜ)	<p>市役所本庁舎3階のロビーは、本市へのお客様や会議の出席者をお通しする市長応接室や講堂にとっての玄関のような場所であることから、耐震改修に合わせ、本市にまつわる文化的作品の展示やプロモーションポスターの掲示などを行うミニギャラリーとして整備しました。</p> <p>このギャラリーでお披露目する作品の第1弾は、本市に縁の深い、宮永岳彦画伯の美人画(レプリカ)3点です。宮永岳彦画伯の画業と市立宮永岳彦記念美術館を紹介いたします。</p>  <p>宮永岳彦画伯(1919年～1987年)は、かつて秦野市名古木のアトリエにて創作活動を行い、「光と影の華麗なる世界」と称される美人画や、流麗な線と華やかな色彩を持ち味としたグラフィックデザインで知られています。また、秦野市を“ふるさと”として愛し、文化会館の緞帳や市内の学校校舎の壁画などの作品も数多く残したほか、「ぺんてるくれよん」のパッケージキャラクターは長年にわたり親しまれています。秦野市では、宮永画伯の遺族から寄贈を受けた数多くの作品を常設展示するため、2001年10月に秦野市鶴巻北に美術館を開館し、今月で15周年を迎えます。</p>
今後の取り組み	今後、市民作品やイベントポスターなど、時期に応じ、秦野らしさを伝える展示を行ってまいります。
問い合わせ	ミニギャラリーに関すること 市長公室秘書課 担当:大嶋 電話0463(82)5100 宮永作品及び宮永岳彦記念美術館に関すること 市民部生涯学習文化振興課 担当:吉澤 電話0463(84)2792

本庁舎3Fロビー壁面の展示について

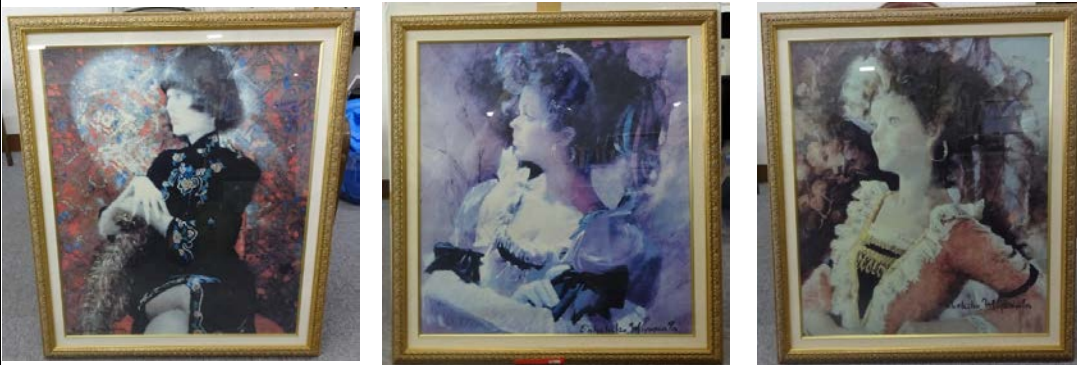
市役所来庁者に本市の魅力を紹介する場として、今年度から本庁舎3階ロビー壁面の利用がスタートしたが、その第一弾として、本市にゆかりのある宮永岳彦画伯の画業と市立宮永岳彦記念美術館を広く紹介するため、宮永作品のレプリカ(美人画3枚)を展示するもの。展示所管課は生涯学習文化振興課

《展示物》

- ①宮永画伯のプロフィール等(A3判)
⇒内容は別紙のとおり
- ②宮永岳彦記念美術館の企画展ポスター(B2判)



- ③宮永作品のレプリカ(20号:72.7×60.6cm)3枚



宮永岳彦画伯(1919年～1987年)は、かつて秦野市名古木のアトリエにて創作活動を行い、「光と影の華麗なる世界」と称される美人画や、流麗な線と華やかな色彩を持ち味としたグラフィックデザインで知られています。また、秦野市を“ふるさと”として愛し、文化会館の緞帳や市内の学校校舎の壁画などの作品も数多く残したほか、「べんてるくれよん」のパッケージキャラクターは長年にわたり親しまれています。秦野市では、宮永画伯の遺族から寄贈を受けた数多くの作品を常設展示するため、2001年10月に秦野市鶴巻北に美術館を開館し、今月で15周年を迎えます。

光と影の華麗なる世界・宮永岳彦



宮永岳彦（1919～1987）

郷土が生んだ洋画家・宮永岳彦は「宮永美人画」といわれる華麗な絵で独自の画風を確立した。特有な世界を創りあげていた流麗な線と華やかな色彩は、戦前から1960年代に至るグラフィックデザインでの研鑽が預かるころも少なくない。その画業は、油彩から挿絵、ポスター、書籍の装幀、童画、水墨画に及ぶ異色というべき多才さで、それぞれ第1級の先駆的業績をあげた。また、「ぺんてるくれよん」のパッケージや「小田急初代特急ロマンスカー」のデザインも手がけた。

市内名古屋木に実家があり、またアトリエを構えていた秦野を“ふるさと”として、とても大切にし、文化会館の緞帳のほか、学校校舎の壁画やカルチャーパーク中央にある噴水の像、『秦野たばこ祭』や『秦野丹沢まつり』のポスターなど、ゆかりのある秦野に多くの作品を残している。

多才な宮永作品を紹介

宮永岳彦記念美術館

宮永画伯の遺族から寄贈された作品を展示するため、2001（平成13）年10月に開館。常設展示室では、半年ごとに展示替えを実施し、多才な宮永作品の魅力を紹介している。

隣接する市民ギャラリーでは創作活動の発表の場として貸し出しするとともに、創作講座や市所蔵浮世絵展などの美術館自主事業を実施している。



常設展示室